

## ■9月3日

国交省、航空輸送情報サービス4-6月期、本邦LCC3社、シェア5.7%

国交省は2日、「航空輸送サービスに係る情報公開」で、国内線2013年4月～6月期データを公開した。

これによると、対象10社合計の輸送人員は2,040万3,993人で、前年同期比7.6%増加した。前年同期よりも144万5,055万人増えた計算になる。なお、ピーチ・アビエーション、ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパンの本邦系LCC3社の輸送人員は115万7,842人で、LCC3社は10社合計の5.7%(前年同期はピーチのみで1.3%)のシェアを占めていることがわかった。

なお、LCCのうちジェットスター・Jは就航後1年足らずで、大手2社グループ以外ではスカイマークに次ぐ旅客数を運ぶまでになった。ピーチも1年で旅客数が1.8倍に拡大、エア・ドゥとほぼ同等の規模に成長した。

\*国交省資料下記添付

(日刊航空)9/3

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省プレスリリース)9/2

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04\\_hh\\_000082.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000082.html) (-> [http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04\\_hh\\_000082.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000082.html))



輸送人員

輸送人員.jpg

JPEG イメージ [76.3 KB]

[ダウンロード](#)

#### 大韓航空、鹿児島—仁川線増便、DAIL運航へ、冬季スケジュール

大韓航空鹿児島支店は2日、現在週3便運航している鹿児島—ソウル線について、冬季スケジュール(10月27日～来年3月29日)において、増便し、毎日運航することを明らかにした。その後のスケジュールは「未定」としている。鹿児島県によると、鹿児島発着の国際線が毎日運航するのは初めて。

同社によると、円安などの影響で韓国からのゴルフ客が増えており、旅行会社などから増便を求める声が出ていた。毎日運航を維持していくには、鹿児島からの利用者をいかに増やすかが課題となるという。

(南日本新聞)9/3

<http://373news.com/modules/pickup/index.php?storyid=51004> (-> <http://373news.com/modules/pickup/index.php?storyid=51004>)

#### 大韓航空、青森—仁川線、8月搭乗率78%、日本人客2カ月連続増

大韓航空が運航する青森—ソウル便の8月の搭乗率が78%となり、利用者数が1年ぶりに3000人台に回復したことが2日、県のまとめでわかった。8月の搭乗率の78%は、東日本大震災前の水準。ただ、日本人客の利用が2か月連続で増える一方、好調だった外国人客の利用にやや陰りが見えているため、県は危機感を強めている。読売新聞が報じた。

県によると、同便の日本人客は日韓関係の悪化などで5月が前年同期比の44%、6月が36%と低迷していたが、7月は53%、8月は95%と持ち直した。

懸念材料は、好調に推移してきた外国人客の利用者数が2か月連続で下落していることだ。

外国人客は5月が前年同期比の176%、6月は239%だったが、7月は150%、8月は77%と今年初めて前年を下回った。閣僚による靖国参拝や、東京電力福島第一原子力発電所の汚染水漏れの問題などが影響しているとの見方も出ている。

(読売新聞)9/3

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20130902-OYT8T01486.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20130902-OYT8T01486.htm>)

アジアナ航空、熊本—仁川線、10月に臨時便—韓国の祝日に合わせ

アジアナ航空が、週3便運航している熊本—ソウル線で10月4、6日に臨時増便し、3日から5日連続で運航する方針を固めたことが2日、分かった。同路線の5日連続運航は2003年9月の就航以来、初めて。県が目指す週5便化への布石となり、成否が注目される。

読売新聞によると、同社熊本支店によると、10月3日は韓国の祝日で、週末にかけて連休を取る人が増え、旅行需要が例年高まるという。加えて、今年2月以降は円安の影響で搭乗率が80%を超える月もあり、旅客数は前年比20%増で推移。需要が見込めるとして熊本—ソウル間の臨時便増発に踏み切った。

蒲島郁夫知事は今年7月、訪韓して同社に週5便化を要請。昨年10月にはアジアナ航空の尹永斗[ユンヨンド]社長が来熊し、「5便化の可能性を検討したい」と述べていた。

(読売新聞)9/3

<http://kumanichi.com/news/local/main/20130903001.shtml> (-> <http://kumanichi.com/news/local/main/20130903001.shtml>)

佐賀空港—福岡。直通バス運行開始

西鉄は2日、佐賀空港と福岡市の天神・博多間を結ぶ直行バスの運行を始めた。春秋航空の佐賀—上海線が運航される月、水、土曜日に1往復し、初日は計38人が利用した。

福岡発第1便の出発式が天神バスセンターであり、西鉄や中国の駐福岡総領事館、佐賀県の関係者らがテープカットを行った。

(佐賀新聞)9/3

<http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2544048.article.html> (-> <http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2544048.article.html>)

チャンギ空港、第5ターミナル建設、収容能力—年間500万人、2025年開港予定

(ASIAXによると)

チャンギ空港拡張事業を協議する政府委員会のジョセイフイーヌ・テオ委員長(運輸担当国務相)は8月31日、第5ターミナル開発計画の概要を発表した。旅客処理能力は年5,000万人と、第2、第3ターミナルの合計より多い大規模施設で、ハブ(中核拠点)空港としての地位を確かなものにするのが狙い。空港の旅客処理能力は1億3,500万人になる。

完成は2025年の予定で、1つの巨大ターミナルとするか、小さな施設の集合体とするかは未定。建設地は現在のターミナルがある場所からチャンギ・コースト・ロードを挟んだチャンギ・イースト。

アジア域内を含め多くのハブ空港が能力強化を図っており、オブザーバーは、チャンギ空港の拡張は必須としている。テオ国務相は「速やかに行動し、拡大するアジア航空市場でシェアを確保する」と語った。

発着便の増加に対応するため第3滑走路を建設する。運用開始は20年頃。既存滑走路と第3滑走路をつなぐ誘導路を建設する。航空機保守施設、ホテル、オフィスビルも建設する。

空港アクセスではバス路線を新設する。MRT(地下鉄・高架鉄道)を第2ターミナルから第5まで延伸することを検討する。東部地域線の乗り入れも検討する。

(ASIAX)9/2

<http://www.asiax.biz/news/2013/09/02-085014.php> (-> <http://www.asiax.biz/news/2013/09/02-085014.php>)

エミレーツ航空、ドバイー台北線就航、来年2月10日、週6便

エミレーツ航空は2014年2月10日から、ドバイー台北線の運航を開始する計画だ。  
同社にとって台北は、極東地域で16番目の就航地となる。

使用機材はボーイング777-300ER型機で、座席数はファーストクラス8席、ビジネスクラス42席、エコノミークラス304席。  
金曜を除く週6便運航する。

(トラベルビジョン)9/2

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58734> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58734>)

エアアジア (LCC)、第2四半期、大幅減益—燃料高騰をうけ

(産経BIZによると)

アジア最大手の格安航空会社(LCC)エアアジアは、今年第2四半期(4～6月期)のマレーシア事業がコスト増から大幅減益となった。現地英字紙スターなどによると、同社の4～6月期の最終利益は5835万リンギット(約17億4600万円)で、前年同期から62%減少した。1～3月期の同39%減に続く2四半期連続の減益だ。

同社によると、燃料価格の高騰による運航コストの増加などが減益の要因。4～6月期の客数は前年同期比12%増の551万人、売上高は同5.5%増の12億5000万リンギットだったものの、コスト増が利益を圧迫した。しかし同社は、不測の事態が起きなければ、7～9月期と10～12月期で盛り返せると強気の見解を示している。

エアアジアは現在もグループを率いるトニー・フェルナンデス会長が2001年に航空機2機で運航を開始。コスト削減を徹底する格安路線が奏功し、現在は運航する航空機が120機を超えた。26年までに約360機を新たに納入する契約を欧州航空機大手エアバスと結んでいる。

同会長は「運航機数がエアアジアのブランド力を示している」とし、今後も低価格サービスを乗客に提供し、新規路線を開拓していく方針に変更はないとの考えを示した

(産経biz)9/3

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130903/bsk1309030504003-n1.htm> (-> <http://www.sankeibiz.jp/business/news/130903/bsk1309030504003-n1.htm>)

中国国際航空、日中路線、20%収入減

中国国際航空(エア・チャイナ)の樊澄副総裁は今年1～6月の日中路線の収益状況について、この上半期の日本路線への影響について、収入は20%減った事を明らかにした。

沖縄県・尖閣諸島を巡る日中対立の激化で、観光客を中心に両国間の人の往来が急減。国際線を主力とする同社の収益下押し要因となっている。

(日経)9/2

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2904G\\_S3A900C1EB2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2904G_S3A900C1EB2000/) (-> [http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2904G\\_S3A900C1EB2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2904G_S3A900C1EB2000/))